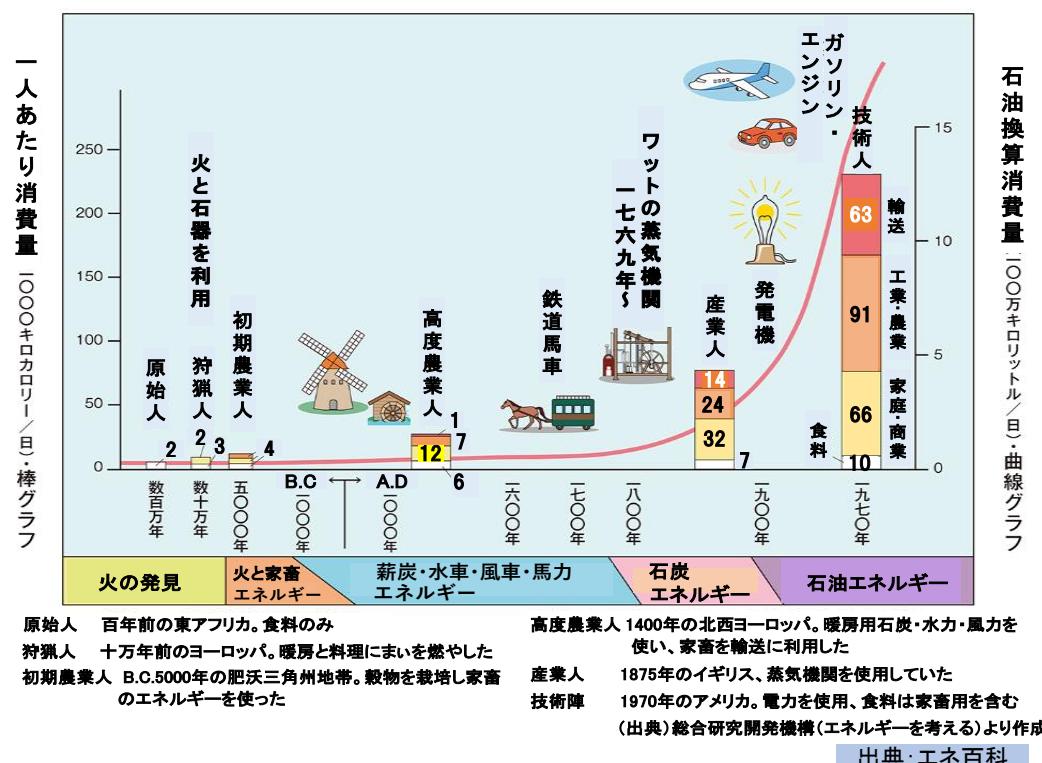


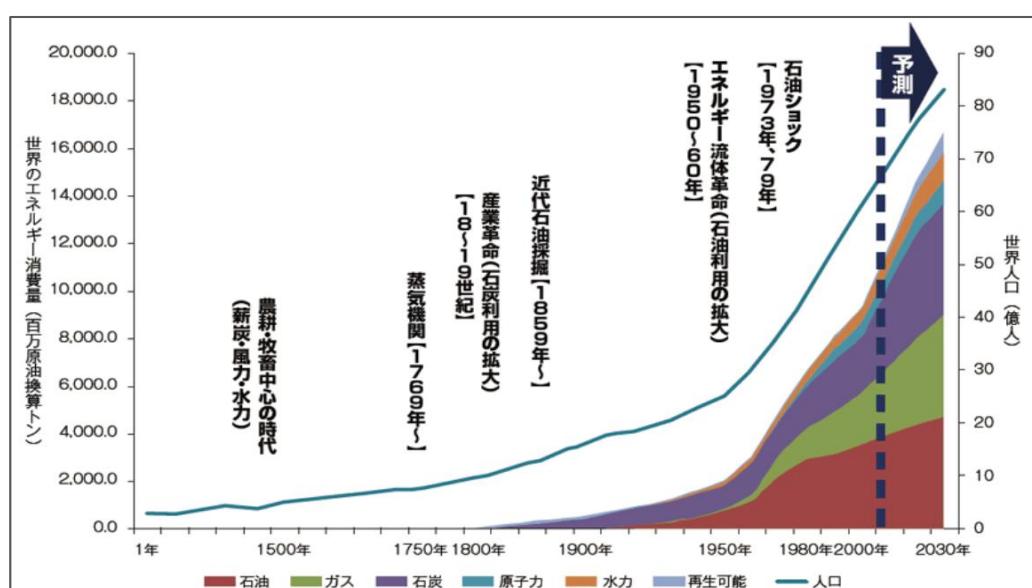
## II-1-①古代～現代までのエネルギー史

人類とエネルギーの関係は約50万年前の火の利用が始まりと言われています。そして人類は、生活スタイルの発展段階に応じて、エネルギー利用の用途を徐々に高度化・多様化させてきました。消費量もその用途拡大に加え、石炭や石油、天然ガスなどの普及により、上昇してきました。



人類が農耕や牧畜を始めたことで家畜や風力(帆船)を、穀物の製粉で水力や風力を、暖房には薪を利用しました。

18世紀、産業革命で石炭による工業化が進み、20世紀中頃には石油が大量に消費されました。また、電気の普及で生活水準や公衆衛生も向上し、人口と相まって、急激な増加となりました。



United Nations, "The World at Six Billion"  
United Nations, "World Population Prospects 2010 Revision"  
Energy Transitions: History, Requirements, Prospects  
BP Statistical Review of World Energy June 2012  
BP Energy Outlook 2030: January 2013

出典: エネルギー白書2013 第111-1-1